



TEKU TEKU おおたがわ てくてく太田川

特集



裏面

太田川の河原の
てくてく
地質学講座
500年の住いば

ふじのくに地球環境歴史
ミュージアム 学芸研究員
青島 晃
編集局長



今年には誰かと一緒に、身近な川へ出かけてみてください。普段の生活では得られない何かを感じるはず。



▲ 河川敷で魚を探す様子



川遊びの
ススメ



編集局員
辻 克美

県内でも有数の支川を持つ太田川。太古より絶えず流れを変えながら、時に穏やかに生活に癒しを与えてくれる一方、時に荒れ狂い人々に恐怖を与えてきました。最近、身近な川が疎遠になってきているように感じます。そこで今回は、改めて川の魅力を身近で触れてみよう、と、森町の「太田川親水公園」を訪れました。

たき火の炎を見て癒しを得るように、川の流れを見るだけで癒されます。四季折々の生き物や植物を見て、少し忘れかけていた季節感を味わうことができます。水に触れるだけで、どこか懐かしさを感じ、一歩足を入れてみたくなるでしょう。魚とりをして観察するのもよし、水の中を水鏡で覗くもよし、流れに体を預けるもよし。

川は、わたしたちの暮らしに深く関わりながら、季節ごとにさまざまな表情を見せてくれます。今回はこの川と、より良い距離でつながるための愉しみ方を取材しました。「川遊びのスペシャリスト」に教わる川の遊び方と、「日本野鳥の会 遠江」の皆さんが語る生き物たちの営み。愉しみ方を学び、いのちを知ることで、川との関わり方はぐっと豊かになります。

PICK UP

川遊びのスペシャリストに聞く
川遊びの心得

川は楽しい場所ですが、危険もたくさんあります。
①子どもだけで行かない。
②大人は子どもから絶対に目を離さない。
③流れの早い場所や深い場所には近づかない。
川へ降りるには、ヌスキヤトゲのある植物に注意し、川に入る時もコケで滑らないよう気をつけましょう。
川から多くを学びつつ、ケガのないよう安全に遊びましょう。

川人(かわんちゅ) 辻 克美

川人の投網

川人の魚教室



大きな鮎も捕まえました!





野鳥と水辺

取材協力：日本野鳥の会 遠江

太田川水系周辺には約200種類の野鳥が

太田川水系は、野鳥たちにとってまさに楽園。清らかな川には、小魚・カニ・エビ・ハヤ・ハゼ・ボラ・アユなどが群れ、鳥たちの絶好の「漁場」となっています。この地域周辺には約200種類の野鳥が確認されているそうです。和口橋周辺でも四季を通じてさまざまな鳥たちを観察することができます。鳥たちが食事をし、羽を休め、子育てをするそんな小さなドラマが繰り返り広がっています。鳥たちのさえずりを聞きながら散策を楽しみました。



編集局員 寺田 公嘉

太田川水系には隠れた魅力がいっぱい!! 面白くなってきたぞ～

和口橋付近で撮影された貴重なシーン



写真提供：増井剛治さん

- ① 河川合流と中洲の風景
太田川と原野谷川の合流地点には広大な中洲が。林や葦原には、キツネタヌキ・イタチ・カワガニ・ヘビなどの姿も。
- ② サギやコウノトリ、白鳥も登場
干潮時には浅瀬に姿を見せ、魚を狙うシーンが撮影されています。
- ③ 猛禽類の狩り!
小笠山・獅子ヶ鼻山から飛来するオオタカ・ハヤブサ・ミサゴが大木に止まり、時にはサギまでも襲うことが。飛行パターンを使い分けて獲物を仕留めるその様子は、まさに自然の王者。

PICK UP

富士山を望みながら、自然とつながる時間を

和口橋からは、粟ヶ岳と重なるようにそびえる富士山も一望できます。心が静かに洗われるような景色です。近くの二瀬多目的運動広場では、探鳥しながら散策も楽しめます。私たち人間も、鳥も、魚も、すべての川と共に生きる仲間たち。太田川の自然といのちにふれて、共生の大切さを感じてみませんか?

日本野鳥の会 遠江(支部)
日本野鳥の会は、探鳥会や写真の展覧会等のイベント企画の他、環境保全に関わるさまざまな活動を行っています。
<http://www.wbsjtm.com/>

源流、かく語りき



編集局員 鈴木 健太

小泉八雲の著書「怪談」に「鏡と鐘」という話があります。その話の舞台は「粟ヶ岳」。その山の麓から太田川水系の逆川が始まっています。そこには他にも民話が伝えられています。その昔日照りが続いたため村人たちが川縁に石で作った地蔵尊を祀ったところ、川の水は絶えることなく流れるようになったそうです。その地蔵は果たしてあるのだろうかと川縁に降りようとしましたが、数やら砂防ダムやらが邪魔をして目的の地へは中々辿り着けず、結局降りたのは水の流れる源流地でした。源流のチロチロ流れ出る水面を見ていたら、なんだかその景色に民話が遠い昔から重なってくるようで、気づくと水の音を古の語りのように聴いていたのです。



▲ 逆川源流

川と緑に囲まれた「なな川の里」



編集局員 浅羽 桃子

ならこの里は、原野谷川の隣に位置する自然豊かなキャンプ場です。ここでは、様々な自然の楽しさ、美しさに触れながらキャンプを楽しむことができます。原野谷川は、とて澄んだ水が流れており、サワガニや小魚などの生き物が生息しています。幼い頃は、友達と川に入ってちやぶちやぶと水の冷たさを楽しんだり、揺れている吊り橋を渡って遊んだりすることがキャンプに行くときの楽しみでした。また、施設には「ならこの湯」が併設されており、露天風呂のある天然温泉を楽しむことができます。自然とキャンプ、温泉を楽しむながらゆったりと理想的な休日である夏の「come back!」です。



▲ 自然とキャンプ、温泉を楽しむながらゆったりと理想的な休日である夏の「come back!」です。

水道水はどこから?



編集局員 大石 佳典

真夏に、蛇口をひねって飲むコップ一杯の水は格別だ。水道水が、どこでもそのまま安心して飲める国は、世界でたった九カ国ほどしかないそうだ。

磐田市民が飲む水道水は天竜川と太田川の水を使っている。(マップ参照) 寺谷浄水場では、なんと50項目以上の検査をしてから、磐田市をはじめ袋井市、森町、そして浜松市、湖西市にも送っている。日本の飲料水は、美しい川の水に加え、高度な浄水技術・インフラと、それに関わる多くの方々によって支えられている。当たり前のように飲んでいく水。川と技術を守ることは、地域の命を守ることに



▲ 寺谷(てらだに)浄水場※マップ参照



探してみよう! 太田川水系の魅力。

橋逸勢の供養塔



編集局員 鈴木 敦子

太田川に架かる市場橋の南の袋井市山梨の用福寺には橋逸勢の供養塔が祀られています。遺唐使として空海らと帰国後の承和9年(842年)に皇位継承に関わる政変で連座して伊豆国に流される途中「遠江国板築郡にて病死」と記録が残されています。後に免罪とされ逸勢の娘妙沖が供養したと言われています。ただ、終焉の地は三ヶ日ともあり、今も論争となっています。こんな身近に日本の三筆橋逸勢の供養塔があるなんて驚きではありませんか。また記録では、逸勢が配流された時に読んだ歌が伝わっています。「古里も今ははるかに遠江月はくまなしやまなしの里」



▲ 日本三筆 橋逸勢供養塔

二筋の流れと 田原小学校



編集局員 増田 晃

磐田市立田原小学校は、磐田原台地の古墳群を見上げる旧太田川の河川敷上にあります。以前は太田川と原野谷川にはさまれた場所に建てられていましたが、昭和55年に現在の位置に移りました。小学校がある田原地区の名前は、太田川と原野谷川の二文字に由来します。また、校歌の三番には「二筋の太田原野谷水清くたまとすみつ」の歌詞が見られます。地域の河川を二つも読み込んだ校歌は珍しく、歌うごとにふるさとの山が子どもたちの心にしみ込んでいくと思えます。参考：開校百年記念誌「田原小の百年」



▲ 太田川堤防からの田原小

川辺の小動物



編集局員 安間美恵子

川岸の草むらに住む小動物は、とてもかっこいい姿をなかなかみせずひそかに住みつき生きている! キジをみた人もいる。タヌキ、キツネ、ハクビシンetc. 薄暗くなるソートと草むらから出て食事し、昼は静かに草むらに潜んでくらす。キツネやタヌキ・ハクビシン達がかやんと手でマタやキ・ハクビシン達がかやんと手でマタを持って食べる姿はかわい!! セツク育った作物をとられるのはくわしいが...



写真提供：増田 裕さん(野鳥の会)

太田川で出会う、いのちのドラマ

太田川には魅力的な自然が広がっています。今回私たちは、日本野鳥の会 遠江の方とともに、太田川の河口から3km上流の「和口橋」周辺を観察してきました。



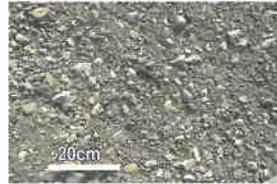
第13回 青島晃の
てくてく
地質学講座

ふじのくに地球環境史
ミュージアム 客員研究員
青島晃
(編集局員)

太田川の河原の石ころの生い立ち

写真1は太田川中流にある、森町「太田川親水公園」東側の河原の石ころの写真です。色や粒の大きさ、硬さなどから、次の4種類に分けることができます。

- ①泥岩：泥が固まってできた岩石で、黒くつるつるしています。
- ②砂岩：砂が固まってできた岩石で、灰色や黄土色をしているものが多く、ザラザラしています。
- ③れき岩：石ころが固まってできた岩石で、一見コンクリートのようにも見えます。
- ④チャート：深い海の底で放散虫と呼ばれる微生物やケイ酸分が積もってきた岩石です。色は灰色や赤色、青色などで緻密で硬いことから昔は火打石として利用されました。

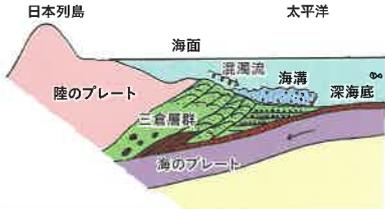


▲写真2 下流の河原 (磐田市和口橋北側)



▲写真1 中流の河原 (森町「太田川親水公園」東側)

この地層は今から約四千万年前に、海溝付近や深海底で堆積しました。図1は、その当時の日本列島から太平洋の地下を描いた図です。その後、このような堆積物がプレートの沈み込みにより日本列島に付け加わって硬い岩石となり、約三百万年前から隆起を始めて赤石山脈になりました。最後にこれらの岩石は、侵食されて太田川により運ばれ、河原の石ころになったのです。



▲図1 三倉層群の堆積当時の様子「日本列島の誕生」(1990)に加筆修正

充電しにきてくれませんか。

編集局員 野中大輔

太田川の自然や文化、ヒトや生き物との出会いなど、あらためてそのポテンシャルの高さを感じています。歩いて「てくてく」はもちろん、河川堤防をバイクや自転車で「てくてく」するのも、やっぱり気持ちいい！

出川さん、ぜひ「さすらい」の旅にきてみてはどうですか？ドローンの撮れ高もバッチリですよ。

ちなみに、この日のヘルメットは「クラウンメロン」でしようか。みなさん、「充電」の準備をお願いします。



▲太田川の桜並木

リバーフレンドシップ

編集局員 武藤君幸

リバーフレンドシップとは、県が管理する河川の一地区間において、住民や利用者等が清掃・除草等の河川美化活動を行うことにより、「みんなの川を守っていく」という意識を向上させ、身近な環境保護に関する意識啓発を図ることを目的とする取組です。

私の勤務する会社では、様々な工事で関わりのある河川の美化活動に、少しでも寄与出来ればと思いを表明しました。

効率の良い作業方法を検討していたところ、フレンドシップに参加している団体には、県より「リモコン式草刈機」のレンタルができることを知りました。機械を借りるにより、効率の良く、また建設業者としての特性やスキルを活かし、河川除草作業を実施しました。川は誰のものでもなく、みんなのものであります。このような取組を知っていたら、活動の輪が少しずつ広がって行くことを期待したいと思います。



▲リモコン式草刈機を操縦する様子

編集後記

人と川のつながり

袋井土木事務所 河川改良課

編集局員 今川 聡

古来、川は流域の風土や文化を育み、人間の生活に密接に関わってきました。しかし、高度経済成長期には汚濁物質が川へ流れ込み、水質の悪い川がいたるところに見られるようになりました。その結果、人と川のつながりは失われ、川は危険で近づいてはいけないところへと変わってしまっただけでなく、また、テレビや新聞では全国各地で発生する水害が度々取り上げられ、川は危ないというイメージを抱く方も多いのではないかと思えます。

てくてく太田川第25号では、「川に近く」というテーマで、川での楽しみ方について取り上げました。川の水に足をつけること以外にも、川を愉しむ方法は実に様々です。人間に恩恵をもたらす、時に災いをもたらすという川の二面性を十分に理解した上で、川は危険というイメージだけに捉われず、川に一步近づいてみませんか。

図書カードが当たる!!

2026てくてく太田川ものしりクイズ

太田川水系周辺に生息する野鳥の種類は？

①約150種類 ②約200種類 ③約1000種類

正解を応募いただいた方の中から図書カード3,000円分を抽選で10名の方にプレゼント！ふるって応募ください！

【応募方法】 上記QRコードからWEBで回答または電子メール、FAX、郵便ハガキのいずれかの方法で、必要記載事項をご記入のうえ応募してください。応募先は、右記の 静岡県袋井土木事務所 河川改良課「ものしりクイズ応募係」まで

【記入事項】 ①クイズのこたえ ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤職業 ⑥電話番号 ⑦「てくてく太田川第25号」をどこで入手しましたか？
新聞読み 回覧・広報 公共施設 観光施設 その他(場所を記載)
 ⑧第25号を読んで新たな発見や感想等

【応募締切】 2026年5月31日 当日消印有効

【当選発表】 当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※ご記入いただいた個人情報につきましては、管理責任者を定め、紛失や漏洩が発生しないように努めます。また、上記の利用目的のみに使用し、第三者に提供することはありません。

編集局員を募集しています!

編集会議では、新しい出会いや知識共有の場を提供します!! 磐田市、袋井市、掛川市、森町にお住まいの方、編集会議に参加しませんか?

てくてく太田川のバックナンバーはこちらから

発行日 2026年3月1日

発行者 静岡県袋井土木事務所

〒437-0042 袋井市山名町2番1号
 TEL 0538-42-3289 FAX 0538-43-0919
 E-mail:fukudo-kasen@pref.shizuoka.lg.jp
 URL:http://doboku.pref.shizuoka.jp/desaki/fukuroi/

編集 太田川情報編集局 袋井土木事務所 河川改良課内

編集局員 磐田市 青島 晃 安岡美恵子 大石佳典 増田 晃
 袋井市 浅羽俊光 浅羽桃子 今川 聡 鈴木敦子 鈴木恭平
 鈴木仁美 門名鏡宏 寺田公寛
 掛川市 安藤剛夫 鈴木健太 野中大輔 三谷真史 武藤君幸
 森町 岡庭 彩 辻 克美

ブログ・Facebook もやっています!!

てくてく太田川 検索